



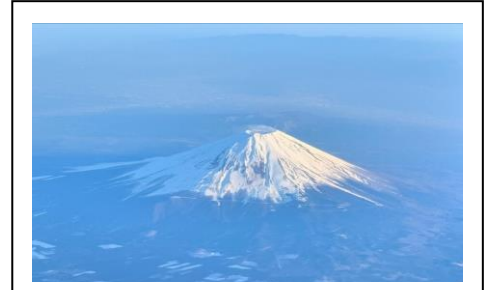
『もっと！！本野通信』

No.17

諫早市立本野小学校長 永井 洋

1 学期をふり返って（終業式での話の内容は裏面です）

1 学期の終業式を迎えました。4月に子どもたちに出会い、早4か月が過ぎようとしています。運動会や環境整備等では、多くの保護者、地域みなさんにご協力をいただき大成功でした。ありがとうございました。改めて「地域の学校 本野小」を感じたところです。また、子どもたちに大きな怪我や事故もなく、登下校できたことが何よりです。終業式では子どもたちに大きく3つの話をしました。（熱中症の心配もありましたので各教室と校長室をリモートでつなぎ実施しました）



一つ目は、始業式で伝えた「山登り」についてです。「自分で目標を立て、その目標に向かって粘り強く努力することの大切さ」また、「「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」という魔法の言葉をたくさん使うことの大切さ」を話しました。そして、夏休みも自分の目標を立て、それに向かってあきらめないでチャレンジしてほしいことも伝えました。

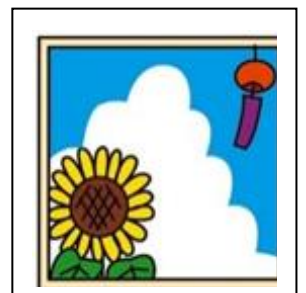
二つ目は、「命の学習」についてです。諫早大水害による本野地区での被害や被災によって亡くなられた方々を悼むのが源流祭、諫早万灯川まつりであること、長崎市に投下された原子爆弾によって亡くなられた方々を悼むのが、県民祈りの日（登校日）であることを話しました。自分たちの市や県の歴史を知っておくことの大切さや、6年生が代表して源流祭に参列することを伝えました。ご家庭でも、どうぞもう一度話題としてください。

三つ目は、夏休み中の事故や事件は誰にでも起きる可能性があるということです。だからこそ夏休みの生活のきまりを守ることの必要性を話しました。

8月9日の登校日や9月2日の始業式に「夏休み元気だよ！」「夏休み楽しかった！」と笑顔の子どもたちと会えることが何よりの喜びです。

夏休み今昔物語（違っていても当たり前ですが、変わらないものもありますね）

皆さんは、小学生の頃、どのような夏休みを過ごされていたでしょうか？私は、小学生までは、ひたすら遊ぶ（そのために宿題は早く済ませる）でした。ただ、絵や作文が苦手で、親や友達に相談していた記憶があります。子ども会で集まることも多かったですね。6年生になると、ラジオ体操でカードに印鑑を押す仕事もありました。子ども会単位の球技大会（ソフトボール）にも燃えていました。中学・高校生の頃は、ひたすら部活でした。仲間と一緒に同じ目標を追いかけました。



今は、宿題をタブレット経由で行う学校もありますし、外で遊ぶのは熱中症のリスクを考えないとはいけません。部活もいろいろ制限があるようです。生活様式も40～50年前とはまるっきり異なるので、今には今の子どもたちの夏休みがあると思います。しかし、今も昔も子どもたちが有意義で充実した夏休みを過ごすために、子どもたち自身が時間の使い方を考えたり、周りの大人たちが温かい関わりをもったりするのは変わらないのかなと思います。

